

FREE 岡山ムーブアップ
vol.7 MAR 2014

OKAYAMA MOVE UP 創刊1周年記念号

THANKS

1st anniversary

*I'm Gonna
and
Gonna Give You Love*

岡山から日本を元氣にするフリーペーパー

OKAYAMA
**MOVE
UP**

FRONT SPECIAL INTERVIEW 1
EXILE ATSUSHI

SPECIAL INTERVIEW 2
山部 泰嗣

SPECIAL INTERVIEW 3
Vecchio Bambino 2014対談

HEADLINE WEST TOKYO HEADLINE

発行人:源 真典(株式会社HEADLINE WEST) / 一木 広治(株式会社ヘッドライン)
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-14 Leeビルディング4F TEL:086-250-8089
編集・製作 株式会社ヘッドライン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-9-6バルビゾン3 403号

EXILE ATSUSHI

国民的ダンス＆ヴォーカルグループ、EXILEのヴォーカリストとして圧倒的な歌声と存在感を放ち続ける、ATSUSHI。リーダーのHIROがパフォーマーを勇退し、EXILEが新しく生まれ変わるこのタイミングで、自身にも大きな変化が訪れた。ソロのEXILE ATSUSHI名義のセカンド・フル・アルバム『Music』を3月12日にリリースする。「ギリギリのなかで自分ができる最大限を詰め込んだ」本作で、EXILE ATSUSHIの新章がスタートする。

最新作はできる限りのことをやった集大成

一木「まずは、12日にリリースされるニューアルバム『Music』について聞かせてください」

ATSUSHI「EXILEの活動をしながら制作していたので、自分の限界、できる限りの事をやってきた積み重ねの集大成というような作品です。エンターテインメントを追求するEXILEと比べると、ソロでは常に音楽を追求するかたちで活動してきたので、ジャンルも多様になったし……これをまとめると言葉は『Music』しかないと、そのままアルバムのタイトルにもしました。明言はしてこなかったんですけど、音楽（Music）というのは常にソロ活動におけるテーマ。ただ、それがアルバムタイトルになるとは思わなかったですけれども」

一木「限界、できる限りのことというと？」

ATSUSHI「いろいろあるんですけど、先行シングルの『青い龍』でサングラスをとったことだとか、肌を露出したりしたこと。それに、コンサートのオープニング曲のイメージで制作した『MAKE A

MIRACLE』。アルバムの最初に収録されている曲なんですが、このミュージックビデオで演技や踊りに挑戦しています。あとは、清木場俊介くんとのコラボレーション。そして、曲数（笑）。すべて含めて、ギリギリのところ、自分の限界までやれたかなと思っています」

一木「自分の限界……それは、スケジュール面でもそうですか？ ギリギリまで制作していたとかがいました」

ATSUSHI「……はい。年が明けたときに、あと7曲レコーディングする曲がありましたから（笑）。リリースまでのプロセスを考えると、1月中には完成させていなければならなくて、1週間で1曲では間に合わないスケジュールです。その後、歌い直しやミュージックビデオ、ジャケットの撮影などもありましたし。レコード会社のみなさんや、周りのスタッフさんにも協力してもらって、ギリギリまで制作させていただきました。いい作品になっていると思います」



一木広治（ICHIKI KOJI）

株式会社ヘッドライン代表取締役社長 / 二十一世紀俱楽部理事事務局長 / ライオンズ日本財団評議員 / 株式会社LDH エグゼクティブプロデューサー / 株式会社ローソン顧問 / 株式会社モブキャストエグゼクティブプロデューサー / アンファー株式会社顧問 / 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会事業広報アドバイザー / 淑徳大学人文学科客員教授（2014年4月～）



日本を元気に!



一木「最新作はこれまでのソロ作と比べると少し印象が違います。以前はバラードのイメージが強かったけれど、アップテンポな曲も多いですね」

ATSUSHI「先ほど、『MAKE A MIRACLE』がツアーオープニングをイメージしたと言いましたが、このアルバムはコンサートを意識した作品なんです。これまで、ライブDVDでいうと3作品リリースさせていただいているんですけど、どのライブでも音楽性を追求し、音楽を聴かせるという作品・ライブになっているんです。そういう意味で、この作品を持ってのツアーディレインメントしたいなって思ったんですよ。会場がアリーナということもありますけど、自分のギリギリじゃないけど(笑)、自分のできる最大限を見せたいな、と。それで、パフォーマンスを考えて曲を選んだり、作ったりしているんで

す。新曲はそういうイメージがあったからこそで、新曲でもあります」

一木「これまで、エンターテインメントしたいって考えていなかつたんですか?」

ATSUSHI「それが、ソロ活動で足りなかつたところだと思っています。パフォーマンスを考えず、想いひとつでやってきて、良くも悪くも音楽に向かいすぎていたのかな、と。そうすると、いざライブだってふたを開けたらアップテンポの曲が全然足りないっていう(笑)。ソロではEXILEでできることをやりたいという、いい意味でのストレスがあったんです。自分の音楽性だったり、自分の音楽的ルーツ、自分にはこういう局面もあるんだけどそれを知つてもらえない、そういうのが。EXILEではエンターテインメントを追求するしパ

フォーマンスもありますからバラード曲は少なくなるので、ソロではより歌を聴いてもらえるバラードをというようにもなっていました」

一木「それがなぜ変わったんでしょう?」

ATSUSHI「これまでのソロ作品であつたり、日本の心を歌つてみたこと、2013年にピアニストの辻井伸行さんや、映画音楽家の久石譲さんとコラボレーションしたことによって、ふつきましたというか。フラットな状態に戻すことができたんです。EXILEだけどういう音楽もやっている、サングラスしているけれど怖いお兄さんではない、そういう部分が表現し終わつた、自己紹介が終つたというのかな(笑)。そういう意味で、この『Music』以降は、みんなで一緒に歌える歌、みんなに寄りそつていける歌を歌つていけるなって感じています」

SHUNちゃんとのコラボは、刺激うけまくりだった

一木「EXILE も大きく変わる転換期だけれども、EXILE ATSUSHI にとっても大きな変化の時だったんですね。ところで、このアルバムにはもうひとつ話題になっていることがありますね。それが、清木場俊介さんとのコラボレーション」

ATSUSHI「はい。もともとは、よりこのアルバムをたくさんの人人に届けたいという想いから、EXILE 第一章の曲を歌おうというアイデアから始まつたんです。それで、許可を取るというか、こういうことをやりたいんだけどって報告するためにSHUNちゃん(清木場)に会って、快諾してもらいました。ただその後になって、曲を聞いていたら、もうSHUNちゃんの声しか聞こえてこなくなっちゃったんです。それで年末に改めて会う機会を作つて、2人で歌いたいということを伝えました。HIROさん始め、EXILEのメンバーも、ファンのみなさんを混乱させることがないようにできるならば、すごくいいアイデアだと賛成してくれましたし、実現してうれしいです。以前からいつか一緒にやりたいねとは話していたんですけど、このタイミングとは! HIROさんの勇退、SHUNちゃんもデビュー10周年、僕も初めて単体でソロ・アルバムをリリースする。いろんなものが重なつて、今だったんだなって思います。一緒にブースに入ってレコーディングをしたんですが、"相



変わらず歌うまいな”“前よりもうまくなっているな”って刺激、うけまくりでした。初心に戻れた部分もありますし、この時期に一緒に歌うことができて良かったって思っています」

一木「この作品を携えてのツアーが楽しみになりました」

ATSUSHI「ライブは静かに聴いているものというイメージを持っている方々の期待を、いい意味で裏切れるんじゃないかなって思います。そういうコーナーも作りますけど、アリーナツアーナので……エンターテインメントしたいと思います。今回はうかがえないのですが、岡山にも行きたいと思っています」

一木「ところで、ATSUSHIさんには、この『OKAYAMA MOVE UP』には初めて登場していただいたわけですが、このフリーペーパーは、東日本大震災を受けて、「ポジティブ」であるとか、「岡山から日本を元気に!」をキーワードに創刊されました。ATSUSHIさんも、震災を受けて、さまざまな活動をされてきましたが、あの日から3年となる今、どんなことを考えていますか?」

ATSUSHI「物資であるとかお金であるとかはもちろんでしようけれど、僕は心折れずに立ち直つてやつていけるような状態になるつていうのも大切だうなって思っています。日本中があの日に何があったのかを意識せずにいられない日であるし、震災がきっかけとなって再確認した絆であるとか、困った人がいたら手を差し伸べるといった、当たり前のことについて改めて考えるきっかけを与えてくれると思うんです。それを感じながら、また自分たちがどうやって歩んでいくか考える

日にもなると思います」

一木「僕も勝手に使命を感じて、いろんなことに取り組んでいますが、みんなでもつといろいろ考えていきたいですね。そんな ATSUSHIさんが目指すところ、夢はなんでしょうか?」

ATSUSHI「先ほど話したことと重なりますが、2013年までの活動で、ようやく日本のみなさんは自分の自己紹介ができたんじゃないかなって思っています。その上で、ファンのみなさんと寄りそう歌を歌いたいと思うし、一緒に歌える歌を歌つていきたいと思っています。その一方で、さらに自分が表現していきたいところも追求していきたいと思っています。あとは、EXILEなのかソロなのか分からぬでありますけれど、世界に向けたアプローチをしていきたいと思っています」

一木「最後に、読者に、ATSUSHIさんのポジティブに進んでいくための方法をシェアしていただけませんか?」

ATSUSHI「適切な答えか分からぬんですけど……前向きに考えないこと、です(笑)。僕は、物事をポジティブに考えたり、とらえようすると何かがおかしくなつてくるんです。だから、まずは現実を受け入れるようにしています。トラブルがあったとしても、それがどういうトラブルなのか理解し、分析し、受け入れていくことで、自分が直すべきところも分かってくるように感じています。それに、無理やりポジティブに考えていくと苦しくなりますから……」

一木「ありがとうございました」



EXILE ATSUSHI'S POSITIVE ITEM

いつも前向きな ATSUSHI の気持ちがアガるポジティブアイテムを紹介

汗を流すこと。

MEANS

ジムで体を動かすと、疲れたりもやもやしていることがすっきりします。トレーニングとしては、坂道をダッシュすることやウエイトトレーニングが主で、エネルギーを限界まで使って、その日をリセットする感じです。

お酒を飲むこと。

MEANS

お寿司なら日本酒、イタリアンでワイン、焼き鳥には焼酎。食事に合わせていろいろ嗜みます。食べたり飲んだりするのは贅沢しようと思えばいくらでもできるし、その逆に節約もできます。だからこそ自分のスタイルで楽しむのがいい。買って来た牛丼を、自分の器に移して玉子を割るとか。幸福感をプラスしての食事やお酒はポジティブになれますね。

『華麗なるギャッピー』

MOVIE

レオナルド・ディカプリオ主演で、去年公開された映画です。ストーリーはもちろん面白いんですけど、ファッションとか音楽とか……総合的にカッコいい映画です。

ヒーリングミュージック

MUSIC

プライベートではあまり音楽を聴かないんですが、眠るときには癒し系の音楽を聴いています。インストゥルメンタル作品ですね。歌をやっている人間なので、ヴォーカルがあるものだと、ちゃんと歌を聴いちゃうんです。

ATSUSHI さんのサイン入り色紙を
読者 3 名にプレゼント！

PRESENT

応募方法などの詳しい内容は「OKAYAMA MOVE UP」
公式 facebook ページよりご覧下さい！

OKAYAMA MOVE UP

検索

EXILE ATSUSHI 3月 12 日 ON SALE

2nd フル・アルバム 『Music』

2年ぶりとなる 2nd フル・アルバム。『MELROSE ~愛さない約束~』を始め、ピアニストの辻井伸行と共に演した『それでも、生きてゆく』、久石譲との共演を果たした『懺悔』などを収録。さらには、初回盤の【2CD+2Blu-ray】と【2CD+2DVD】には、盟友である清木場俊介も参加した『fallin'』『The Impossible Is Real ~ My Lucky Star ~』を収録したディスクも。ATSUSHI のすべてが詰め込まれた作品だ。



左:初回生産限定豪華盤【2CD+2Blu-ray (豪華ブリスター・パッケージ仕様)】
6825 円 (税込)。左:初回生産限定豪華盤【2CD+2DVD (豪華ブリスター・パッケージ仕様)】5775 円 (税込) 右:初回盤【CD】2940 円 (税込)





山部泰嗣 Taishi Yamabe

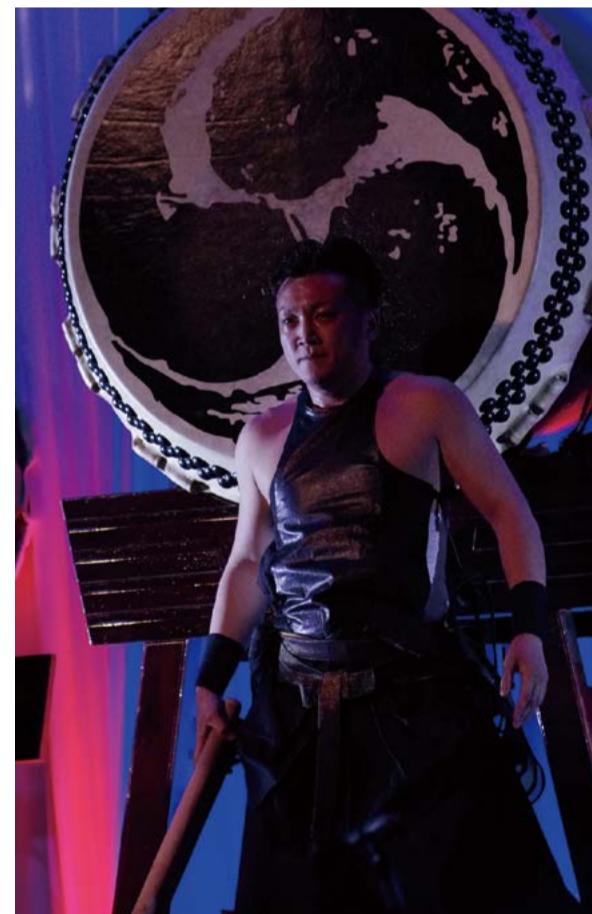
物心つくころからバチを握っていたという山部泰嗣は、「若き天才和太鼓奏者」「50年に1人の太鼓奏者」として大注目の和太鼓奏者。そんな彼が伝統にとらわれない、新しいスタイルの演奏を模索する理由とは。



世界で勝負できるのが太鼓の魅力

和太鼓を始めたきっかけは父親です。3歳ぐらいから、おもちゃの太鼓を打っていた。本格的に始めたのは6歳の時です。無理やりやらされたという感覚はないんですけど、今思えばやっぱりやらせたかったんだろうなというのはありますね。だからさりげなく、身近に太鼓を置いておいたらおもちゃがわりに打つんじゃないかと思ったんじゃないかな。だとしたら、まんまと策略にはまってますね(笑)。太鼓の魅力は世界で勝負できるところ。例えばメロディーがつくと、そのメロディーを聞いただけで、どんな音楽か分かるじゃないですか。でも太鼓の音って、なんとか分からぬ。ロックなのか、サンバなのか、ジャズなのか。なんだか曖昧で、何風って言えない。だから世界のどこでも勝負できるんです。音が大きくて体をこれだけ使って演奏する音楽って多分太鼓ぐらいじゃないかな。ですから、どんな国でも受け入れられやすいし、分かりやすい楽器なので、海外での活動も増えてきたんじゃないでしょうか。バチさえ持てば誰でも打てるで(笑)。でもそれをいかに、その人らしく打てるのかっていうところが太鼓の魅力なんじゃないかなと思います。普段打ってなくてもお祭りになれば誰でもそれなりに打てるのが太鼓なんです。ほかの楽器、例えば尺八や三味線っていうのはそういうわけにはいかないですし、楽器としての歴史がある。でも太鼓なんて音楽としての歴史はたかだか50年ほどなんです。でもそのたかだか50年で、これだけ世界で勝負ができるということが、太鼓の魅力でしょうね。2004年に東京国際和太鼓コンテ

ストに出場して、最年少の16歳で最優秀賞を獲得したんですが、実はコンテストに出ることが怖かった。お前は日本一だってちやほやされて、おらが村の大将で育ってきた人間が、順位を付けられた時に2位だったらどうしようと(笑)。俺が一番だと思ってやってきたのに、2位だったら立ち直れないんじゃないかなって(笑)。だから一生懸命言い訳をしていました。太鼓は聞いてる人が何かを感じるものであって、点数なんか付けるもんじゃないって。出場したのが16歳だったし、周りが大人ばかりだったので、なんか言い訳できないかなってずっと考えていました。でもいざ出場したら、それから開放されたので、それはそれで良かったかなと今は思っています。もともとはもてたいとか、ちやほやされたいという不純な動機から始まって、今に至ってるようなもんですから(笑)。だから、優勝しなかったらちやほやされなくなるんじゃないかなっていう恐怖しかなかった。まあ、優勝したから良かったんですけど、もう2度と出ることはないと思っていました。なんか、太鼓がないと自分は今の立ち位置でいられないっていうのが子どものころから無意識の中にあったんですよね。俺は絶対太鼓だと。いまだにプロ野球選手になれるならプロ野球選手になるもん(笑)。でも結局太鼓は好きだし、世界で良かつたって言ってもらえるのが太鼓しかないから。俺は自分が並の選手だって気づいてるので、並の選手、並の人間が海外の人に感動したって言ってもらえるのは、俺には太鼓しかない。だから太鼓をズルズル続けるんじゃないかな(笑)。



山部泰嗣 (やまべ・たいし)

1988年8月岡山県倉敷市内にて誕生。物心つく前よりバチを握り太鼓が遊び道具だった山部は、6歳から地元、倉敷天領太鼓のメンバーとして舞台に立つ。2004年、和太鼓の世界で最大にしてもっとも格式が高く、海外からの出場も認められ、事実上世界一決定戦とも言われている東京国際和太鼓コンテストに出場。最年少で最優秀賞を獲得。山部の太鼓の特徴は、独自のリズム感と、抜群に早いバチさばき。伝統的な太鼓のテンポだけでなく、ロックのような速いテンポまで、あらゆるリズムを2本のバチで自由自在に表現する。そしてもうひとつ、上半身を大きく反らせる独特的の打法。168cmと小柄で細身な山部が、力強く太鼓を打つために日々の練習で試行錯誤し身につけたもの。山部は現在、フランス公演など、海外にも活動の場を広げる一方、プロとして『山部泰嗣と天領太鼓“一刀”』を新たに結成。メインの奏者としてだけではなく、舞台全体の演出、新曲作りと新たな和太鼓の可能性を追求し、弟・哲誠とのドラムセッションなど、他の楽器との新しいコラボレーションを積極的に行っていっている。



本質を大事にしながら伝統にとらわれない演奏を

世界で勝負する以上、伝統文化にとらわれず、前に進んでいきたいんです。いつも思うのが、挑んで壊れてしまうような伝統ならなくなってしまうということ。太鼓だけではなく、三味線や尺八などが今、新しい演奏方法、演奏形態に挑戦している。昔は歌と三味線だけだったのが、太鼓とやりだしたり、尺八と津軽三味線がやりだしたりっていうことが実際に行われているので、そんな新しいことを、きっちり本質を持ちながら広げていくことが大切だと思っています。本質を大事にしながら伝統にとらわれず、逆にもっと知らない人に近寄った演奏ができた、いろんな人に太鼓ってこういう演奏の仕方があるんだっていうことを知つてもらう。太鼓も新しいジャンル、新しい音楽としてスタートしているということを広めていきたいと思っています。僕はね、自分が絶対太鼓を嫌いにならない方法を知つてるんですよ。それはね、サボる(笑)。僕は太鼓が大好きだから一生懸命太鼓をしないといけないと思うと太鼓を嫌いになる。だから、太鼓が嫌いになりそうになったら太鼓を休めばいいじゃんって。どうせ3日休んだら太鼓を打ちたくなるんだから(笑)。仕事も3日休んだらそろそろやばいなって思うじゃないですか。その感覚に自分で追い込めば、また太鼓が好きな自分に戻れるので、あえて一生懸命太鼓をしない。120%で週に1回練習するより、30%でダラダラ太鼓と付き合ったほうが、10年たつたら絶対太鼓がうまくなっていると思う。だからメンバーにも一生懸命になるなって言います。舞台では一生懸命にならなきゃいけないけど、太鼓に対

して100%の気持ちで生活をすると。そんな生活をしていたらすべてが楽しくなる。だから嘘をついてさぼってしまえって(笑)。意外と普段100%の力でやっていると、いざっていう時に踏ん張れないんです。僕はこんだけやってきたんだっていう自信しかないから。それよりは僕は

30%の力だったけれども、毎日太鼓のことを考えて、毎日太鼓を打つたっていうほうが、よっぽど賢い。そんな感じだから、あんまり辞めたいと思ったことがないですね。太鼓がなかったら僕、ちやほやされないって分かってるし(笑)。男前でスポーツができたら、多分太鼓はやってないな(笑)。

若い世代に太鼓のかっこよさを伝えたい

太鼓ってどうしてもお客様の年齢層が高い。僕はそれを下げたいんです。メロディーを入れてやっているのも年齢層を下げたいから。メロディーが入るとやっぱりとつつきやすくなるんですね。もうね、何がショックかって、同級生がまったく太鼓に興味がないこと。学生時代、すごいショックだったことがあって…。僕が太鼓を一生懸命やっていて、“かっこいいやろ。僕はこんなにちやほやされているんだぞ”って、思っていたのに、同級生は何も感じてくれなかった(笑)。だから曲調やテンポ感をいろいろ考えています。若者と年配の方の何が一番違うかっていうと、テンポ感なんですね。だからご年配の方には正直我慢していただき、若い人に受け入れてもらいやすいようなテンポで演奏することもあります。やっぱり、同級生にかっこいいと思ってもらいたい

たいし(笑)。同級生だけじゃなく、もっと僕らより下の世代が太鼓をしたいとか、太鼓ってかっこいいんだなと思ってほしい。そして、太鼓ファンを一人でも増やせたらいいかなと思っています。今の目標は60歳まで太鼓を打つこと。だから60歳までは、太鼓を好きでいられるようにして、その時までちやほやされているように頑張りたいと思います(笑)。



Be POSITIVE

Culture/Item/Entertainment and more

人に元気を与える人になるには、自分自身が元気でハッピーじゃなきゃ。ムカつくこと、悲しいこと、情けないこと、失敗すること、心が痛くなる出来事…。毎日毎日嫌なことはあるけど、ほんの少し見方を変えて見ることで、気持ちちは前向きに立て直せるはず。そんな時、そっと背中を押してくれるさまざまなモノ。友達、家族、ペットなど心許せるモノをはじめ、楽しい映画、ノリノリの音楽、感動的な本など、心に響くものを誰でもひとつ持っている。

また、それだけではなく、髪形を変えたり、旅行に行ったり、美味しいものを食べたり、やってみたかった習い事に挑戦したり、自分を変えてみることで、人生が楽しくなる方法もたくさんあるはず。そんなポジティブになれる最強のカルチャーやアイテムやエンターテインメントなどをご紹介。あなたの気持ちがハッピーになるようなモノに出会えますように。

第28回 倉敷音楽祭が開催

今年も倉敷市内のいくつかの会場で「倉敷音楽祭」が開催される。28回目となる同音楽祭は、第23回目から、日本各地の特色ある芸能文化を紹介するイベントとしてリニューアル。歴史や風土の影響を受け、民衆が生活の中で育んできたさまざまな芸能をその土地のゲストが披露するなど、長く受け継がれ高められてきた芸の技と触れ合うことができる。今年は、倉敷と北陸交流フェスティバルということで、新潟県と富山県の唄や踊りを紹介。「哀」をテーマに深い山々と冬の豪雪に閉ざされる暮らしの中で育まれた郷土色豊かな芸能が楽しめる。

市民が創る音楽祭、“町並みコンサート”は、主に倉敷を中心に活動している音楽家・文化団体による発表公演。それぞれに趣向を凝らしたステージを繰り広げ、音楽祭を盛り上げる。

また、“特集芸能”として、「越中おわら節」「越後瞽女唄」「越中五箇山民謡」など、北陸の伝統文化をゲストが演奏、または踊るステージも開催される。

さらに、“市民制作公演”では、アマチュアビッグバンドジャズの祭典や倉敷市内唯一の管弦楽団による演奏、倉敷天領太鼓と日本各地の和太鼓奏者による競演など、プログラムも盛りだくさん。

新潟・富山県と倉敷の特産品や飲食物を販売する屋台村や芸能資料展などのお楽しみも。北陸新



幹線の開通を控えて、盛り上がっている富山と新潟の伝統芸能が存分に体験できる。

第28回倉敷音楽祭【期間】3月16日(日)～23日(日)【URL】<http://arsk.jp/m-fes/>

季節の変わり目にスタミナ UP!!

岡山市内に2店舗展開している焼き肉屋『高架下ホルモン』。象徴的な店名の通り、大元駅前、大和町の高架下に実際に出店中。岡山市内でも、数多くの焼き肉屋はあるが、『高架下 ホルモン』大元駅前では肉を注文すれば野菜も一緒についてくるという、鉄板焼き風るのが特徴だ。特にオススメ商品は国産和牛のハラミとプリプリのホルモン。今の時期は、牡蠣もオススメ商品だそうだ。そして、『高架下ホルモン』で食事をし

た後は、次回に使える素敵な特典満載のスクラッチカードがもらえるといううれしい特典も。

さらに、3月10日に大元駅前にリニューアルオープンとなっている。女性をターゲットとし、これまで以上に海鮮、旬の野菜に力をいれていくそうだ。季節の変わり目で体力が落ちがちなこの時期に、会社の飲み会、友達と一緒に美味しいお肉や野菜を食べれば、体も心もポジティブになれるかも。

営業時間：17:00～23:00 (22:30 オーダーストップ) 店休日：毎月 第三月曜日 (祝日の場合は翌日にずれる)
住所：〒700-0923 岡山県岡山市北区大元駅前 180-17 電話番号：086-243-3355 / お一人様単価：2,500円～
公式HP URL：www15.plala.or.jp/KoukasitaHorumon/



サンさん岡山リニューアル open

2月14日(金)、岡山県内の特産品、また県外の方が県内で作っている加工品などを取り扱っている『サンさん岡山』が表町から岡山市田町にある、有限会社ベクトルが運営する田町MOVE UP!! 店1階にリニューアルオープンした。ここには、全70社の登録で、お米やお菓子、お酒、調味料など約400種類もの商品が陳列しており、中でも最もファンが多い商品はお醤油と卵のこと。

さらに、より多くの方に実際に商品の味を感じてもらうため、同店の2階のMOVE UP cafeでは、『サンさん岡山』で販売されている食品を使用し

た料理、また飲料が提供されるという。

また、今後はリサイクルショップが併設していることもあり、そこで服を売ればポイントが溜まり、そのポイントで商品と交換できるという新たなサイクルを作り上げていくそうだ。

今後のさらなる展開として、商品のネット販売、そして岡山の特産品を全国に発信するべく、4月の1日に向けECサイトの立ち上げ準備も行っているとのこと。

今後の『サンさん岡山』、またリサイクルショップの新たなビジネス展開にも注目が集まりそうだ。

MOVE UP SPOT 営業時間【1F】サンさん岡山：AM10:00-PM7:00 / VECTOR：AM10:00-PM8:00 (年末年始を除いて年中無休) 【2F】MOVE UP caf：AM11:00-PM10:00(予約の場合はPM12:00) 店休日：毎週日曜日 PM3:00 以降/毎週月曜



東京から日本を元気に！TOKYO MOVE UP!

東京の未来を語る

TOKYO MOVE UP ! スペシャルトークイベント

「東京から日本を元気に！」を合言葉に活動している TOKYO MOVE UP ! が、オリンピック・パラリンピック開催が決定した 2020 年に向けて「皆で日本を元気に！」をテーマにゲストを招いたトークイベントを東京・富ヶ谷のハクジュホールで開催。イベントの様子は Ustream でも配信。また、ラジオ番組「JAPAN MOVE UP!」の公開録音も行われ、TEAM2020 プロジェクト 100 万人宣言ネットワークをスタートさせた。

ゲストは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長・専務理事をつとめた水野正人氏、水泳・2012 年ロンドンオリンピック銅メダリスト寺川綾氏、EXILE の TETSUYA 氏。

第一部は、水野氏による基調講演。オリンピック・パラリンピック招致活動にまつわる話を披露した。招致の成功は「計画」「支持率」「国内・国際の事業と広報」「評価委員会への対応」「プレゼンテーション」「ロビング」の要素を慎重に積み重ねてきた結果だと話し、「素晴らしいチームワークでオリンピックの開催が決まった。それを成功させることはもちろんだが、2020 年以降の東京、そして日本がいい社会になっていることが大切。みなさんも協力して下さい」としめくくった。

続く第二部はゲストによるトークライブ。2020 年にオリンピック・パラリンピック東京開催が決定し、未来に向けた展望や課題を 2020 年の東

京を担う、20～30 代の若者とともに考えるシンポジウム」とことで、さまざまなテーマに沿って意見が交わされた。

「スポーツのチカラ」について寺川氏は、「オリンピックは選手にとっては夢を叶える場所であり、見る人にとっては夢を叶える瞬間に立ち会える場所。前回オリンピックに出場した時は自分の中に必死で、周りの人の思いを感じる余裕がなかった。でも街を歩いていて“感動しました”など、声をかけていただいて、あらためてスポーツの力を感じました」とアスリートならではの意見を述べた。また TETSUYA 氏は「競技をしている選手にとっては夢が明確になる場所。10 年前半の子が、オリンピックに出たいと話しているのを聞くとうれしい。自分は競技には出られないで、海外から来る方に日本のいいところを紹介したい。今から英語と歴史を勉強します」と語った。その後の質疑応答で「今一番力を入れていること」を聞か

れた水野氏が「オリンピック招致のため、長い間家を留守にしていたので、妻を大事にしたい」と答えると会場からは笑いとともに拍手が起こり、和やかなムードでトークライブは終了した。

最後に、今後 TOKYO MOVE UP! は、オリンピックが開催される 2020 年に向けて日本を元気にするさまざまなプロジェクトを行う「TOKYO MOVE UP Project TEAM2020」を始動することを発表。ゲストは 2020 年までに行いたい「日本を元気にするための MOVE UP ACTION」を宣言した。それぞれ「総力結集」(水野氏)、「水泳ファンを増やしていくように頑張ります」(寺川氏)、「ダンスの力で一人でも多くの人を笑顔にします！」(TETSUYA 氏) と書いたボードを持ち、これまで同様オリンピックに向けて、それぞれの場所でサポートすることを誓った。



DANCE の道

EXILE TETSUYA “男を上げる”Monthly Column supported by ANGFA

過去に優しく、今に厳しく、未来は楽しく。

ソチオリンピック、皆さん見てますか？選手の皆さんを見ているとスポーツの力はすごいです。チャレンジ精神、努力、仲間、涙に笑顔。たくさんのドラマがあり、それぞれにオリンピックを目指してきたストーリーがあるので見ていて本当に感動します。そして何といってもド派手な開会式は、パフォーマーと映像、音楽、照明、花火のこれでもかっていうくらいの素敵な演出によって表現されていました。国を挙げてのエンターテインメントってすごいですね、言葉は分かりませんが、ロシアの歴史や素晴らしい伝わる、壮大なスケールの SHOW で最後の聖火からの花火は圧巻でした。生で見られなかつたのが悔しいです！ でも、2020 年東京でのオリンピック・パラリンピックがますます楽しみになりました。選手の皆さん、たくさんの感動をありがとうございます、最後まで応援しています！ 3 月 7 日からはソチパラリンピックも始まるので楽しみです。テレビを観すぎて寝不足にはご注意くださいね(笑)。

そんなオリンピック・パラリンピックに刺激を受けて、僕も最近はトレーニングや DANCE の練習に励んでいます。去年よりも更にいいパフォーマンスを目指して積み上げて行きたいと思います。先ほど 1 年前のこのコラムを読み返してみました (TOKYO HEADLINE 掲載)。DANCE EARTH の舞台の最中で、稽古で学んだことや本番で感じ

た事が鮮明に思い出されます。あの時の稽古でもっとこうしていれば本番はもっと良くなつたんじやないか？ なんて思うことはたくさんありますが、過去に優しく、今に厳しく、未来は楽しく！ 一つひとつできる事をやって、今年の舞台 DANCE EARTH PROJECT グローバルエンターテイメント『Changes』も頑張ります。

ところで皆さんには、優しくしたい過去、厳しくしたい今、楽しみな未来はありますか?? それってきっと、今を生きることなんじゃないかな？ と僕は思います。失敗した過去がいくつあろうが、夢や目標に向かって今を精一杯に生きる。実際のところ僕の失敗の数は半端じゃないです(笑)。でも、未来のイメージは限りなく楽しみです！

本当に恵まれていると感じます。

だから今、できることは思いっきりやりたいのです。例えば、今の時代の日本で、水を飲んだだけで、火をつけてお湯が沸いただけで、これで今日を生き抜けると感じる人はなかなかいないと思いますが、そのくらい些細なことも感じて感謝しながら、自分が DANCE できる今を大切にしたいです。

ソチという異国の中での選手生命を懸けて命を燃やして戦っている皆さんの中でも、今回で最後と決めて挑んでいる方や今回からバトンを受け取った選手を観させていただいていると、そんな気持ちにさせてくれる



のです。『ガンバレ日本!!』。最後まで応援して皆さんに日本に帰って来た時に、心からお疲れさまと言わせていただきたいと思います。